

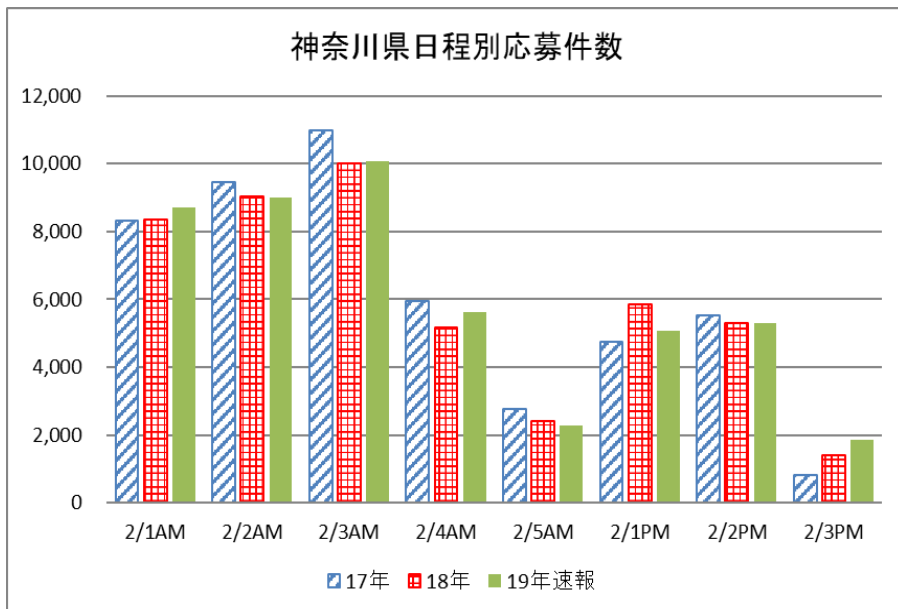
# 神奈川県私国立中入試概況

## 1. 概況 応募総数・実受験者数は増加するものの、増加率は他県よりも小さい

神奈川県内の公立小6児童数は約75,900名で、昨年より約2,200名増えています。2月15日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計で約50,800件となっていて、昨年の最終より約1,000件の増加しています。昨年まで減少が続いていましたが、今年は増加しました。入試結果未公表の学校や二次募集実施校があり、最終的にもう少し上乗せされます。実際の受験者数は約37,100名で昨年の最終より約500名の増加、合格者数は約14,400名でした。この合格者数にはコース

制の学校の上位コース入試での入り易いコースのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校がありますから、「入学できる」合格者数はもっと多くなりますが、同じ基準で見ると昨年最終より約800名減っていて、合格者数を絞り込みました。

千葉県や埼玉県の記事を読むと、両県とも応募者数は神奈川県よりもかなり増えています。中学受験志向が強くなっていて、両県よりも児童数が多い神奈川県が小幅の増加なのは、1つは両県とも中学受験の中心、東京都よりも早い日程で一般入試が行われるため、県内在住で都内校を希望する受験生は、県内校を複数受験し、都内校も複数受験するのに対して、神奈川県は都内校と同じ2月1日から一般入試が始まりますから、都内校と県内校の併願校数が多く取れないことです。残念ながら県内校と都内校のどちらを受験するか迷ったとき、都内校の吸引力が高くなっていて、千葉県や埼玉県のように応募者数や受験者数が増えません(その代わりに、両県では合格者の入学率が神奈川県よりも低い)。もう1つは桐蔭学園の改革です。同校は正式には中等教育学校を共学化し、中学校の募集を停止しました。実質的には昨年まで男子部中等・従来型、女



子部理数・普通のコース制で複数志願が可能だったことから1人の受験生が2つの課程・コースに出願した場合、人数が重複計上されていましたが、今年からそれを中等単一にしたため、見かけ上減ったわけです。同校はさらに2月1日午後の、一番応募者が多かった入試も廃止しましたので、全県の応募者数の集計ではダブルパンチになったわけです。同校1校で昨年の全県の応募総数の6%を占めていましたから、大きな影響がありました。

日程別の分析に移ります。上のグラフは今年の県内中学入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したもので、今年速報値です。県内で実施される地方寮制校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。全体的な傾向では2月3日午前が最多ですが、これは公立一貫校がすべて3日に集中しているからです。2月1日午前は昨年より300名以上増えています。中学受験が拡大した結果です。しかし2日午前、3日午前、4日午前は昨年並みです。2日午前は、横浜国大鎌倉が昨年の2月2・3日から3・4日に動いた(入試が2日間の場合は初日にカウント)などの影響がありますが、桐蔭学園や慶應湘南藤沢の減少で増加

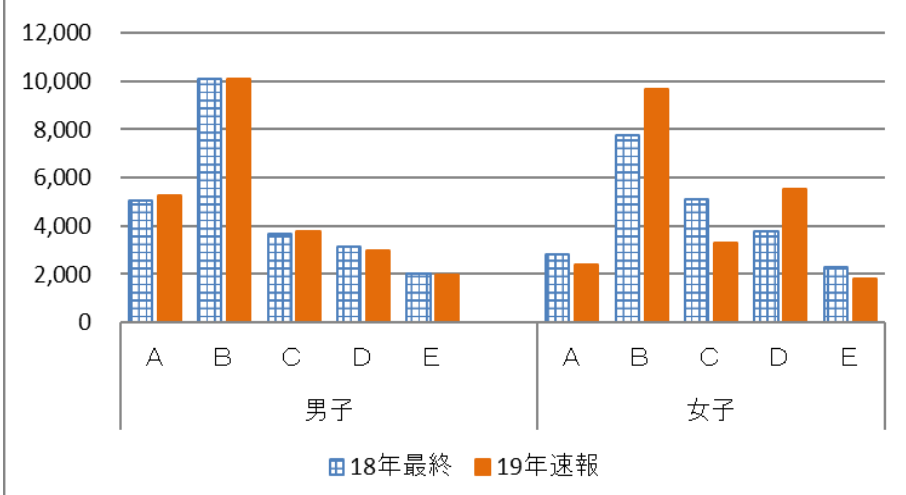
に結びつきませんでした。3日午前は、今年が日曜日だったため、横浜共立などプロテスタント系の学校の一部が宗教上の理由から日曜日を避けて入試を4日に移して、そのためほとんど昨年並みになっています。4日の増加はこれらの学校が中心です。

午後入試は1日午後が大きく減っていますが、これは前述の桐蔭学園の日程廃止が一番の理由です。桐蔭学園の入試がなくなって大きく減った、ということは、昨年なら同校を受験していたであろう受験生が県内他校にはあまり流れていない、ということです。東京23区や多摩地区では1日午後が増えていますから、そちらに流れたのでしょうか。3日午後には清泉女学院が増加の中心です。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。上のグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年を受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

まず男子は、A～Eのどのグループも昨年並みの応募者数で、ほとんど同じグラフです。中学受験は拡大していますが、県内の中学を受験する男子児童はほと

難易度別応募者数 神奈川県



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院・洗足学園・フェリス女学院
- B…青山学院横浜英和・鎌倉学園・鎌倉女学院・神奈川大附属・公文国際学園・サレジオ学院・湘南白百合学園・清泉女学院・逗子開成・中央大学附属横浜・日本女子大附属・日本大学(GL)・法政大学第二・森村学園・山手学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- C…カリタス女子・湘南学園・桐蔭学園・桐光学園・日本大学(NS)・日大藤沢・横浜国大附属横浜・横浜女学院(国際教養)
- D…神奈川学園・関東学院・自修館・相模女子大学・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属(難関)・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢・聖園女学院・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院(アカデミー)
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・関東学院六浦・函嶺白百合学園・北鎌倉女子・聖ヨゼフ学園・聖和学院・相洋・橘学苑・鶴見大附属(進学)・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵・横浜創英・横浜隼人・横浜富士見丘学園

んど増えていません。県内受験生の都内指向が強くなったこと、都内から神奈川県内の中学を受験する児童も増えていないこととなります。女子はA～Eグループ合計も増えています。B・Dグループが増加、間のCグループが減って、受験生の志向が二分化しています。Aグループがやや減っていて、最上位挑戦志向は弱くなっているようです。一方、Dグループの増加は、一貫教育を求めるニーズの高まりでしょう。以下、地

域別の入試状況です。県立相模原中等、平塚中等、横浜市立南、市立サイエンスフロンティア、川崎市立川崎は、公立一貫校のページをご覧ください。

## 2. 川崎・横浜地区

### <男子校>

**聖光学院**は、曜日の関係で帰国生入試を1日早めています。以前から後述の栄光学園との間で受験生の流入が見られ、栄光学園の応募者が増えていることから、今年も2月2日の1回は応募者が少し減りました。4日の2回は、昨年は大きく減りましたが、今年は増えています。1回不合格者の再挑戦や、栄光学園不合格者の流入が増えたのでしょう。後述のサレジオ学院Bに影響を与えたようです。1月の帰国生入試も応募者は増えています。合格最低点は帰国生入試が上がって、難化していますが、1・2回は昨年並みで難度に変化はなかったようです。**浅野**は、以前は2,000名台応募者数で、近年は2,000名を下回るようになっていましたが、昨年、今年と、再び応募者が少しずつ増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えています。合格者数や合格最低点は昨年並みで、安定した難度の入試でした。

**サレジオ学院**は2月1日のA入試の応募者数が一昨年、昨年、今年とほぼ同じ水準が続いています。4日のB入試は昨年からやや増加、今年は少し減りました。聖光学院の2回に少し流れたのでしょう。合格者数はABとも昨年並みで、合格最低点はAが少し下がり、Bは昨年並みでした。Aは少し得点しにくい出題だったようで、難度はAもBもあまり変わっていないと思われまます。**慶應普通部**は、一昨年から応募者やや減、昨年はやや増加、今年は昨年並みで安定した人気です。今年も補欠が出ていて、難度は昨年並みでしょう。

**横浜**は、昨年の各回次合計の応募者数が少し減っていて、今年も2月1日午前のI回が増加、他の回次は昨年並みで、小規模な入試でした。同校は2020年から高校募集を共学化すると発表していますが、中高一貫コースは男子のみのまま残すということで、男子校志向の受験生が離れているのかもしれませんが。**武相**は2月2日午後の2回と、3日午後から5日午後に移った4回を1教科入試に変更しました。小規模な入試の学校ですが、今年もこの点に変化はありませんでした。

### <女子校>

男子募集を開始した**横浜富士見丘学園**は男女校をご覧ください。横浜市内の神奈川女子御三家の3校、**フェリス**、**横浜雙葉**、**横浜共立**から。昨年まで少しずつ応募者が減っていた**フェリス**は、今年は増加、一昨年並みの応募者数になりました。今まで特に学校のことを広報する部署がなかった同校ですが、共学の難関校を狙う受験生が増えてきたことで危機感があり、今回広報部署を新設してアピールに努めました。その成果が表れたようです。実質倍率はやや上がっていますが、もともと高難度でしたから、特に難化したわけではなさそうです。

**横浜雙葉**も昨年は応募者が減りましたが、今年は増加しています。合格者数は昨年並みで、実質倍率は少し上がっています。昨年は出題が少し難化したようで、合格最低点も少し下がっていましたが、今年は上がりました。出題難度の調整はあったと思われまますが、少し難化したようです。**横浜共立**は、B入試を、日曜日を避けて2月3日から4日に移しました。1日のAは応募者がやや減っています。他校に流れた受験生も出たようで、実際の受験者も減っていますが、合格者数は昨年よりやや多く、合格最低点が下がっています。若干ですが入り易くなったようです。Bはこのレベルでは珍しい2科で、4日に移って併願校の幅が広がったためか、大幅な応募者が増えました。実際の受験者も増えましたが、合格者は逆に絞っています。合格最低点は昨年並みですが、実質倍率が上がって、ボーダーライン付近がかなりの激戦りになったようです。

**神奈川学園**は昨年、各回次合計の応募者数、受験者数が大きく減りました。今年も合計では減っていますが、2月1日午後のA午後入試が減少したため、1日午前のA午前と2日午前のBは昨年並み、4日午前のCは増加しています。他校併願前提の受験生が別の学校に流れたのでしょう。Cは受験者も増加して合格者も増えていますが、合格最低点は少し上がっていて、やや難化したようです。他の回次はいずれも昨年並みの合格最低点で、難度に変化は見られませんでした。**横浜女学院**は昨年から国際教養クラスとアカデミークラスの新しいコース制を実施しています。昨年はコース改編への期待が高まり、各回次合計の応募者数が大幅に増えました。今年もさらに人気が上がっていて、アカデミーの2月1日午前の応募者がやや減ったもの

の、他の回次はすべて、国際教養は全回次で応募者が増えています。両コースを併願する受験生も多いのですが、国際教養の増加率が高くなっています。実際の受験者数も増加、合格者も増やしていますが、各回次の合格最低点は昨年と同様です。

**捜真女学校**は、A・B…という入試呼称を1回・2回…の呼称に変更、5回(旧E)を1日早めるなどの変更がありました。一昨年、昨年と各回次合計の応募者数は小幅な増減でしたが、今年は増えています。2月2日午前・午後の2・4回や4日午後の5回が目立ち、口頭試問型の対話学力入試も増えています。実際の受験者数や合格者数も増えていますが、不合格者はあまり多くなく、各回次の難度面は昨年並みでしょう。カトリックの**聖ヨゼフ**はもともと小規模の入試の学校です。今年は2月3日の入試を廃止しましたが、各回次合計の応募者は少し増えました。同校は2020年度から国際バカロレアの教育を導入した共学校になる予定です。

川崎市内では、**洗足学園**が帰国生の入試日程をずらしましたが、曜日の関係によるものです。一昨年は2月1日の1回、2日の2回、5日の3回ともに応募者がやや減っていましたが、昨年は1回が大きく増えて、2・3回もやや増えていました。今年は1~3回とも減っていて、特に3回の減少が目立ちます。帰国入試もやや減りました。実際の受験者数も減少していますが、合格者数が各回次とも昨年とあまり変わっていないにも関わらず、合格最低点も1回の2科合格や3回は昨年よりも上がっていて難化したようです。1回の4科や2回、帰国入試も昨年並みで難度を維持しています。応募者数の減少は、隔年現象の面もありますが、近年難化が進んだため、やや力不足気味の受験生に敬遠ムードが生まれたことが原因なのでしょう。

**カトリック校のカリタス女子**は昨年2月1日午前の入試を設定し、全体に日程を前倒しにしました。昨年は各回次合計の応募者が少し増えていましたが、今年はやや減っています。一昨年、2日午後に新設した新3科型入試の応募者が、昨年はふえていたのが今年は減っているのが影響しています。実際の受験者数も少し減っていて、1日午前のI回は合格最低点が下がっています。少し入り易くなったかもしれませんが、3日午前の3回は上がってやや難化したようです。他の回次は昨年並みの難度でしょう。**日本女子大附属**は昨年まで各回次合計の応募者数が減っていましたが、今年は

各回次とも昨年並み、厳密には微増で、人気の低下に歯止めがかかりました。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度面では安定した入試でした。

### <男女校>

まず**桐蔭学園**から。同校は男子の中等教育学校、男子部従来型、女子部理数、女子部普通コースの別学募集で、男子の中等以外は高校入学生と混合され、高3は所属の部・コースとは別に男女併せて志望大学別に再編成される指導体制でしたが、一昨年から大改革に着手し、今年度からは中学募集が完全共学の中等教育学校に再編されました。授業内容も、従来の進学重視型カリキュラムに加えてアクティブラーニングを積極的に実施して、大きくイメージが変わりました。

受験関係者の間では、一足先に昨年から完全共学に移行した高校募集が大人気で、県内全私立高校の応募総数の9%を桐蔭学園1校が占める事態となったため、今回の中学募集でどれだけ応募者が集まるか注目されていましたが、昨年的高校入試が「受験しやすく」改革したのに対して、今回の中学入試は募集定員を削減して従来の男子中等・従来型、女子理数・普通の併願を廃止、男子中等・女子理数の難度を目指した設定とし、さらに昨年新設して多くの受験生が集まった1日午後入試をたった1年で廃止したから、応募者が減るのが当たり前の改革を行いました。結果としては各回次合計の応募者数は大きく減っていますが、合格最低点は昨年の男子中等・女子部理数よりは少し下がった回次が見られるものの、男子部従来型・女子部普通よりはかなり上がっていて、男子中等・女子部理数の難度を目指した目標は、概ね達成したようです。受験生の立場からは、入り易かった男子部従来型・女子部普通がなくなってしまった結果と考えるとわかりやすいでしょう。

**横浜富士見丘学園**は、男子の募集を開始して女子校から男女校になりました。一昨年、昨年と応募者が少しずつ減っていましたが、各回次・男女合計で応募者が大きく増えています。男女比は約1:2で、女子は回次ごとに少し増減が見られるものの、概ね昨年並みの応募者数でしたから、男子募集を開始した分、応募者が増えたこととなります。男子は2月1日午後、2日午後、4日午前の応募が中心で、他校併願受験生が多いことがわかります。女子は各回次とも昨年並みの難

度、男子は不合格者が少ないのですが、1日午後は実質倍率も高めで、女子と同等か、若干入り易い難度だったようです。

**公文国際**は、一昨年の各回次合計の応募者が前年並み、昨年は女子が少し減っていましたが、今年は各回次・男女とも増加して人気が上がっています。国際色豊かな点が受験生に支持されているのでしょう。実際の受験者数も増加しましたが、合格者数は2月1日のAでやや多く出ただけで、3日のBは昨年並みでした。実質倍率はABとも上昇、合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、Aは少し難化したかもしれません。Bは難化確実でしょう。**山手学院**は、一昨年は各回次とも応募者増加、昨年は減少、今年は増加と、隔年的な変化ですが、全体的な中学受験志向の高まりもあって、各回次とも2~4割と大きく増加しています。実際の受験者数もかなり増えましたが、合格者は1割増やした程度で、その分実質倍率が上がりました。ただ、合格最低点は上下いろいろで、出題内容の影響でしょう。難度面では各回次ともあまり変化しないようです。

**中大附属横浜**は、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が小幅な増減で、特に昨年は2月2日午後の2回の女子の増加が目立っていましたが、今年は2回だけでなく1日午前の1回も応募者が男女とも増えています。有名大学付属校人気です。ただ、昨年大きく増えた2回の女子は小幅な増加でした。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、1回は合格最低点が上昇、少し難化しています。2回は昨年並みの合格最低点で、難度はあまり変わっていないようです。昨年共学化した**青山学院横浜英和**は、帰国生入試は昨年並みの応募者数でしたが、2月1日午前のA、2日午後のB、3日午後のCの男女とも応募者が増加しています。昨年は2科4科選択を4科に統一、出題も一昨年に比べて少し難度を上げると公表していたこともあって、共学化で応募者は増えたものの「大きく増加」というわけではありませんでした。今年はお題分析も各塾で進んだようで、本格的な応募者の増加です。実際の受験者数も増加していますが、合格者は昨年並みしか出しておらず、各回次とも最低点が増え、難度がワンランク上がった入試でした。

**神奈川大学附属**は一昨年まで各回次合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、昨年は減り、今年

再び増えていて、女子がその中心です。実際の受験者数もやや増えていますが、合格最低点は2月2日のAが昨年並み、3日のBと5日のCは少し下がっています。得点しにくい出題だった面もあると思われますが、Cは少し入り易くなったかもしれません。**森村学園**は、昨年は各回次とも応募者が少し減っていましたが、今年は帰国生が増加、2月1日の1回がやや減、2日の2回は少し増えて、4日の3回は昨年並みでした。各回次合計では昨年をやや上回ったものの、1回は少し減っています。志望順位が高い受験生が他校に流れたようです。合格最低点はやや上下していますが、各回次とも概ね昨年並みの難度だったようです。

**日吉の日本大学**はグローバル対応と難関大学進学を目標とするグローバルリーダーズコース(以下GL)とNスタンダードコース(以下NS)の2コース制です。今年はお題検査型入試を2月4日から1日午後に移動したほか、昨年実施した1日午前4科・英算理社の選択を4科のみに戻す代わりに、1日午後で2科から英算も選択できるよう変更しました。同校は2016年に各回次合計の応募者数は大きく増えましたが、一昨年、昨年、今年と少しずつ減っています。昨年はGLの応募者が減ってはNSは一昨年並み、今年は逆にGLが昨年並みでNSの、特に女子が減っています。GLも一部女子の応募者が減っている回次が見られ、女子の人気も沈静化しています。実際の受験者数、合格者数も少し減りましたが、GL、NSとも合格最低点は昨年並みで、減った受験生は同校がやや厳しかった学力層だったようです。難度が敬遠されたのでしょう。

**関東学院**の応募者数は各回次合計で、一昨年は男子が大きく増加、女子が前年並み、昨年は男子が減って女子が増加していました。今年も男女とも増えていますが、2月1日午前のI期A、3日午前のI期C、6日午前のII期は男子、1日午後のI期Bは女子の増加が目立ち、男女で傾向が異なることは変わっていません。I期A・B・Cは昨年並みの合格最低点で難度に変化は見られませんが、II期は合格者が絞られてかなり上がり、難化しています。**系列校の関東学院六浦**は、お題検査型の総合入試、英語入試、自己アピール入試を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数が少し減り、昨年、今年と前年並みでした。新設入試は決定・告知が遅かったことから、応募者が少ない結果で、受験生にあまり浸透していません。合格最低点は公表さ

れていませんが、各回次とも昨年並みの難度でしょう。

**鶴見大附属**は一昨年、昨年と各回次合計の応募者がふえていましたが、今年はやや減っています。各回次でバラつきはありますが、概ね男子は昨年並み、女子が少し減っています。女子受験生が他校に流れたのかもしれない。実際の受験者数も少し減っています。難関進学と進学の2コース制で、今年も進学コース入試での難関合格や、難関進学入試での進学スライド合格をだしていますから、両コースとも難度自体はあまり変化がなかったようです。**横浜隼人**は2月2日午後自己アピール型入試を新設しました。一句年、昨年、今年と、各回次合計の応募者数は安定していますが、実際の受験者数は増えていて、対応して合格者も少し増やしました。難度面では昨年並みのようです。

**横浜創英**は、適性検査型入試を新設するとともに、2月6日午前に入試を追加しましたが、1日午後入試を廃止しました。同校には失礼な表現ですが、同校ぐらいの難度の学校で午後入試を廃止したのは大変珍しいことです。一昨年は各回次合計の応募者数が前年並みでしたが、昨年は少し減っています。今年6日午前入試新設もあって、各回次合計では応募者が増えている、実際の受験者数、合格者数も同傾向です。合格最低点は、合格者が少ない回次を中心に上下が見られますが、得点分布の影響でしょう。難度は各回次ともあまり変わっていません。系列校の**横浜翠陵**は2月1日に英語選択の入試を新設しました。2日午前は男女とも昨年並みの応募者数だったものの、適性検査型も含めて各回次の男女とも応募者が少しずつ減っています。昨年も男子の減少が目立っていましたが、今年も男女とも4科の受験生の減少が目立ちます。2科は増えているので、同校の受験者層が少し変わってきたのもしれません。合格最低点は1日・2日の午前がやや下がっていますが、目立った変化ではありません。

**橘学苑**は英語入試を新設しました。各回次合計の応募者数は増えていますが、実際の受験者数は少し減って今年も小規模な入試でした。**国立の横浜国大横浜**は、昨年まで隔年で応募者が増減していた、今年減る順番ですが増加しています。市立南に押されていた人気も回復してきたようです。倍率が上がった分、やや難化したようです。

次に川崎市です。**法政第二**は、帰国生入試日程を曜日の関係で変更しただけです。2016年度に共学化、

16・17年度は応募者が増加して人気が上がっていましたが、難化が敬遠され、昨年は男子がやや減、女子は前年並みでした。しかし、今年再び男女とも増加しています。有名大学附属校人気を反映したものです。2月2日の1回は合格最低点が若干上がって、難化したかどうか、といった状況でしたが、4日の2回は合格者を絞り込んで、合格最低点は上昇、難化した入試になりました。

**桐光学園**は男女別学を続けています。各回次合計で男子は一昨年が応募者減、昨年はやや増えていて、今年も帰国入試が減ったものの、一般入試は全回次増加しました。女子は減少傾向が続いていましたが、今年2月2・4日の2・3回が増えて、合計では昨年並みでした。桐蔭学園と比較検討されることが多い同校ですが、前述のように桐蔭学園が別学から共学に移行したことから、男子校志向の受験生の中には桐光学園に志望先を変更した受験生もいたようです。女子は共学志向が高い受験生が増えていることから、男子ほど動きは大きくなかったのでしょうか。合格最低点は男女とも1回が下がり、2・3回は上がっています。出題内容の影響もありますが、1回は志望順位が高い受験生が中心ですから、少し配慮したのでしょうか。2・3回は少し難化したのかもしれません。**大西学園**は本稿執筆時点で入試結果未公表です。

### 3. 横須賀方面・湘南方面

#### <男子校>

**栄光学園**は以前は聖光学院1回との間で受験生の流入が見られます。一昨年、昨年に引き続き、今年も応募者が増えましたが、今年増加幅が大きく、聖光学院からの流入だけでなく、挑戦志向の受験生も増えています。受験者数も増えましたが、合格者数はやや絞り込んでいて、合格最低点は昨年並みですから、難度面はあまり変わっていないようです。**逗子開成**は、一昨年は各回次とも応募者数が少し増えていて、昨年は帰国が前年並み、2月1日の1次と3日の2次が減り、5日の3次は少し増えていました。今年も帰国と2次が昨年並み、1次は若干増えて、3次はやや減っています。各回次合計の実受験者数と合格者数は昨年並み、合格最低点は1・2次が昨年並み、3次はやや下がっていますが、少し得点しにくかったのでしょうか。難度は各回次とも昨年並みで、難度が安定した入試でした。

**鎌倉学園**は昨年から、逗子開成との重なりで応募者が減ることを覚悟して2月1日の午前に入試を行うようになっていっています。昨年は予想通り各回次合計の応募者数、実際の受験者数が減りましたが、一昨年人気が高かった1日午後の算数選抜の応募者が大きく減って午前に流れた受験生が出ていました。今年は1日午前の1次がやや増加、算数選抜は昨年並み、2日午前・4日午前の2・3次は応募者が増えています。2・3次は実際の受験者数も増えたので合格者も増やしていて、各回次の合格最低点は2・3次も昨年並みの水準でした。難度の変化は見られません。**藤嶺藤沢**は、2月3日の4回を5日の5回と同じ科目選択型に変更しました。一昨年、昨年と各回とも応募者が減っていましたが、今年は1日午後の2回が増加、他の各回次も昨年並みの応募者数で、人気の低下に歯止めがかかりました。2回は昨年並みの合格最低点でしたが、1日午前の1回と2日午後の3回は上がっています。得点しやすい面はあったかもしれませんが、少し難化したようです。5回と科目変更の4回は未公表ですが、昨年とあまり難度は変わっていないようです。

### <女子校>

**湘南白百合**は、曜日の関係で帰国生の入試を1日早めました。2月2日の一般入試は一昨年、昨年と応募者が減っていましたが、今年は昨年と同数、帰国生入試は昨年並みの応募者数でした。一般入試は昨年よりも欠席者が多くなっています。1日に他校を受験し、その日のうちに合格が決まった受験生でしょう。以前はフェリスの定番の併願校でしたが、最近は受験生の併願校選びが変わってきている影響かもしれません。帰国生の合格者が増えた分、一般はやや合格者が減っています。合格最低点は少し上がっていて、出題が得点しやすかった面はあるかもしれません。難度面ではやや上がったかどうか、といった結果でした。

**鎌倉女学院**もフェリスをはじめとする神奈川女子御三家の併願校です。2月2日の1次、3日(昨年の4日から移動)の2次とも応募者の増加が続いていましたが、今年は1次がやや減って、2次は昨年並みでした。人気が一段落したようです。合格最低点は1次がやや下がっていますが、出題の関係でしょう。2次は昨年並みで、どちらも難度は特に変わらなかったようです。**清泉女学院**は2月3日の3期を午後に移して英語選択

を新設、1日午後のグローバル入試もⅢ期に移しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が大幅に増加、昨年は減少、今年は再び増加と、隔年的な変化です。実際の受験者数もかなり増えましたが、合格者数は僅かしか増やしておらず、実質倍率は上がりました。ただ、合格最低点はあまり変わっておらず、難化したというよりもボーダーライン付近が1点を争う厳しい状況になったと考えた方がよさそうです。

**聖園女学院**は帰国生入試の日程を変更しただけでした。昨年は各回次合計の応募者数が増えていましたが、今年は各回次ともほぼ昨年並みで、実際の受験者数も同様です。合格者数は少し増えていますが、2月1日午前の4科と2日午前の2科4科は少し上がっています。難化した、というよりも同校の今年の受験生の学力層が少し上がったのでしょうか。1日午後の総合力入試は合格最低点が下がっていますが、出題の性格上難度はあまり変わっていないようです。他の回次の合格最低点は昨年並みでした。

**鎌倉女子大**は特進・進学の2コース制でしたが、昨年から特進レベルの募集となっていて、今年は2月1日午前、2日午前の入試を2科4科選択から2科に変更しています。特進レベルのみの募集としたため、昨年は各回次合計の応募者数が減りましたが、今年も昨年並みで小規模な入試でした。**北鎌倉女子**は昨年新設した日本語4技能入試を増やしています。昨年は各回次合計の応募者が増えましたが、今年は昨年並みで小規模な入試でした。**聖和学院**は一昨年から表現力総合型入試やプレゼンテーション型入試を実施しています。昨年は各回次合計の応募者がやや増えましたが今年は減って小規模な入試でした。**緑ヶ丘女子**は応募者が増えています、今年も小規模な入試でした。

### <男女校>

**慶應湘南藤沢**は横浜初等部からの内部進学者が入学するため、今年から募集定員が削減されました。また、選択で英語入試も実施しています。応募者数は一昨年、昨年と応募者は少しずつ増えていましたが、今年は帰国入試が男女とも昨年並みのだったものの、一般入試は定員削減が響いて男女とも応募者が減りました。1次合格者に2次試験を実施する2段階選抜ですし、もともと高難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。**日大藤沢**は一昨年、昨年と2月1・4

日の1・2回男女とも応募者が少しずつ減っていました。今年も1回は男女とも少し減っていますが、2回は昨年並みでした。実際の受験者数では2回も少し減っていて、横浜や町田方面に向かう受験生が増えているようです。難度の面ではあまり変化はなさそうですが、今年もボーダーライン付近が少し入り易くなっているかもしれません。**湘南学園**は2月1日午前に動画事前提出・論述型のESD入試を新設しました。昨年は各回次男女とも応募者が減っていましたが、今年もESD入試を別としても、各回次男女とも応募者が増加、一昨年の水準に戻りました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、各回次とも合格最低点は上がって、難化しています。ESD入試は実質3倍を超える結果でした。

**横須賀学院**は、各回次合計の応募者数が一昨年はやや増加、昨年は前年並み、今年も再び少し増えて人気が上がっています。一般的な2科4科の入試が増えていて、12月の帰国生入試、2月1日の適性検査型と2日午後の英語入試は昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数、合格者数とも増えていて、合格最低点は各回次で上がったたり下がったりしています。不合格者があまり多くないため、受験生の得点分布で変化するからです。ですから、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。**アレセア湘南**は小規模な入試の学校です。今年もポテンシャル入試を2月2日にも増設したり、3日の入試を4日に変更しました。昨年に続いて各回次合計の応募者数は増えていますが、今年も小規模な入試で、難度も特に変わっていません。

**国立の横浜国大鎌倉**は、今年も2月3・4日の2日間入試です。昨年の一般の応募者数は男女ともやや減っていましたが、今年も男子が昨年と同数、女子は増えました。2日間入試で他校と併願しにくいこともあって、志望順位が高い受験生が中心の入試です。小規模な入試ですが、女子は少し難化したかもしれません。

#### 4. 県央～県西方面

##### <女子校>

**聖セシリア**は2月3日午後のA3次を2科4科選択から2科のみに変更しました。昨年は各回次合計の応募者数が大きく減りましたが、実際の受験者数は減っておらず、あらかじめ遅い日程まで出願しておく受験

生が減っただけでした。今年も2月1日午後のBグループワーク型の応募者がやや減り、2日午前のB英語入試が昨年並みだったものの、2科や4科のA入試は1日午前、2日午後、3日午後とも増加していて、実際の受験者数も増えました。合格最低点は各回次とも昨年とあまり変わっておらず、難度は安定した入試でした。

**相模女子大**は2月1日午前にプログラミングの入試を新設しました。次期学習指導要領ではプログラミングも学習することになっていますので、一足早く得意な受験生を迎えようとするものです。昨年に続いて今年も各回次合計の受験者数がやや減っていますが、欠席率が低下していることから、実際の受験者数は一昨年、昨年、今年とほぼ同じです。合格者数も変わらず、難度も変化は見られませんでした。地域は離れますが**函嶺白百合**は今年も小規模な入試でした。合格最低点は昨年より上がっていますが、難度は特に変わっていないようです。

##### <男女校>

**東海大相模**は一昨年まで町田の日大第三などに受験生が流れて各回次合計の応募者数が少し減っていましたが、昨年は人気が反転して増加、今年も昨年並みの応募者数です。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、各回次とも難度は昨年並みだったようです。**自修館**は2月1日に適性検査型の探究入試を新設、2月5日にD入試も追加しました。1日午前は4科や2科の受験生の一部が探究入試に流れましたが、他の入試は男女各回次とも応募者が減っています。一昨年、昨年と、各回次合計の応募者が減っていましたが、今年もD入試を加えても昨年の応募者数を少し割っています。ただ、今年も実際の受験者数は昨年並みで、あらかじめ多くの入試に出願する受験生が減ったための応募者の減少で、合格者数も昨年並み、難度も特に変化していないようです。

地域は離れますが、**相洋**は昨年、各回次合計の応募者数は減りましたが、実際の受験者数はやや減った程度にとどまっています。今年も各回次とも少しずつ増えていますが、昨年は応募者が減ったにもかかわらず各回次の合格最低点は少し上がっていましたが、今年も逆に少し下がっています。昨年、合格者を絞った反動かもしれません。少し入り易くなったようです。